

HPV-DNA ハイリスクグループとローリスクグループの検索の意義についての検討 2013/12/15

はじめに 近年子宮がん検診に HPV-DNA ハイリスクグループの検索が導入されようとしています。その導入の理論的根拠は子宮頸がんが HPV-DNA ハイリスクグループの感染により発生するということであり、医療経済学的には、HPV-DNA ハイリスクグループは慎重観察を行い、反対に HPV-DNA ハイリスクグループの感染していない婦人は毎年検診からはずし、3年以上間隔をあけることを期待しています。

今回、当院では、全ての検診受診者ではなく、細胞診結果異常（Ⅲa 以上）の婦人に絞って HPV-DNA ハイリスクグループの合併の有無を検討し、その全員 25 人が HPV-DNA ハイリスクグループ陽性であることを認めたので報告します。この細胞診異常婦人のほか、細胞診クラス I（コルポスコプで白斑など）、Ⅱの 5 例、尖圭コンジローム 4 人、外陰部白斑症 5 人、肛門腫瘍 1 人についても HPV-DNA ハイリスクグループ、ローリスクグループ検討を行ったので報告します。各グループに含まれる型は末尾に提示してあります。

1) HPV-DNA ハイリスクグループ検査の対象の臨床診断と陽性率（膣部採取）

	症例数	HPV-DNA ハイリスクグループ陽性率	HPV-DNA ローリスクグループ陽性率
細胞診クラス I（コルポスコプで白斑など）、Ⅱ	5	2/5=0.4	1/4=0.25
細胞診結果異常（Ⅲa 以上）	25	25/25=1	6/21=0.28
尖圭コンジローム	4	2/3=0.66	2/3=0.66
外陰部白斑症	5	1/4=0.25	0/4=0
肛門腫瘍	1	0/1=0	0/1=0

2) 結果詳細

a) 細胞診異常群（子宮膣部から検体採取）

PC I 2名（一人は膣部拡大鏡検査スコープで白斑+赤点が認められたので、HPV-DNA ハイリスクグループ検査実施、もう一人は円錐切除後の人）前者は HPV-DNA ハイリスクグループもローリスクグループも陰性、後者は2種とも陽性。

	不検査	陽性	陰性	実施合計
ハイリスクグループ	0	1	1	2
ローリスクグループ	0	1	1	2

PC II 3名（他院でASCUS判定、以前疑陽性などで HPV-DNA ハイリスクグループ検査実施）

	不検査	陽性	陰性	実施合計
ハイリスクグループ	0	1(ローリスクは陰性)	2	3
ローリスクグループ	1	0	2	2

PC IIIa 17名

	不検査	陽性	陰性	実施合計
ハイリスクグループ	0	17	0	17
ローリスクグループ	2	5	10	15

PC IIIb 4名

	不検査	陽性	陰性	実施合計

ハイリスクグループ	0	4	0	4
ローリスクグループ	1	0	3	3

PCIV 4名

	不検査	陽性	陰性	実施合計
ハイリスクグループ	0	4	0	4
ローリスクグループ	1	1	2	3

PCVの症例はなし。

b. 尖圭コンジローム症例4名（子宮腔部から検体採取）

頸部細胞診	不検査	I	II	IIIa	IIIb	実施合計
症例数	1	1	1	1	0	4
ハイリスク	不検査 1	陰性 1	陽性 1	陽性 1		3
ローリスク	不検査 1	陰性 1	陽性 1	陽性 1		3

c. 外陰白斑症 5名（子宮腔部から検体採取）

	不検査	陽性	陰性	実施合計
ハイリスク	1	1	3	4
ローリスク	1	0	4	4

d. 肛門腫瘍(肛門からの採取) 1例のみですが、肛門腫瘍のHPV-DNAハイリスクグループ、ローリスクグループとも陰性でした。

3) 考察

以上の結果から確かにいえることは、腔部細胞診判定が、クラスIIIaからIVの症例では、HPV-DNAハイリスクグループが100%陽性に出るということです。この結果から考えて、このようなクラス判定の症例にHPV-DNAハイリスクグループの検査を実施することは意味がないということです。保険では型判定が認められていますが、型判定においても意味はないのではないのでしょうか。この結果の逆はどうでしょう。すなわち、「HPV-DNAハイリスクグループが陽性なら、その症例は細胞診クラス判定はIIIaからIVである」となるのでしょうか。この命題は、他の臨床研究からして受け入れがたいものです。でも、「HPV-DNAハイリスクグループが陰性なら、細胞診判定が陰性である」との可能性はあるように筆者は思います。肝臓の除外診断に血液検査でHBs抗原やHBC抗体検査を利用する方法と似ています。そのような子宮頸がん発生の可能性が低いことを診断する方法として、HPV-DNAハイリスクグループの検査は利用できそうです。しかし、今回の調査からは何とも断定できません。

述語説明 検査キットはHPV DNA「ミツビシ」HCII（ハイリスクグループ用）とh c 2HPVDNA test(ローリスクグループ用)を使用

1. HPV-DNAハイリスクグループ 子宮頸がんを発生させている、人いぼウイルス。  
16, 18, 31, 33, 35, 39, 45, 51, 52, 56, 58, 59, 68型の13種
2. HPV-DNAローリスクグループ 尖圭コンジロームを発生させている人いぼウイルス  
6,11,42,43,44型の5種
3. HPV-DNA中間リスクグループ 26,53,55,62,66,71,73,82,84,90型の10種